

4:1 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。
4:2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。
4:3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあります。
4:4 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。
4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。
4:6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。
4:7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。
4:8 主が罪を認めない人は幸いである。」

ユダヤ人にとっても、また旧約聖書でもアブラハムは信仰の父であり、信仰の模範です。彼が義とみなされたのも、やはり信仰によるものでした。「神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあるからです。

人間の頑張りや我慢、功績や努力では、絶対聖なる神様に認めていただくことはできません。また犯した罪を帳消しにすることはできないのです。

ですから私たちも、自分はよくやっている、正しい、立派だと自負するよりも、主によって「不法を赦され、罪をおおわれた」と感謝することから始めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

